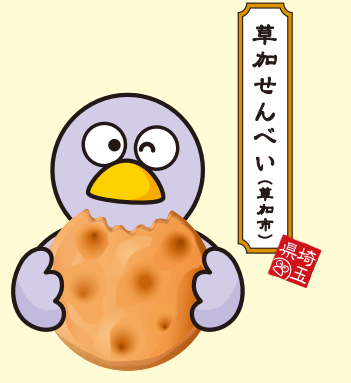


令和2年度 文部科学省委託事業  
埼玉県つながる食育推進事業報告書

# 絆で深め 未来につなげる 彩の国の食育

～笑顔かがやく草加っ子をはぐくむ食育指導～



埼玉県マスコット「コバトン」



令和3年2月

埼玉県教育委員会

## はじめに

近年、社会環境の変化や食生活の多様化に起因した児童生徒の朝食欠食などの食生活の乱れや、肥満・痩身傾向の増加などの健康問題が指摘されております。そこで、成長過程にある子供たちが、自己の食生活を正しく理解し、生涯にわたって望ましい食習慣を身に付けるため、学校給食の果たす役割と学校における食育の推進は、今後、ますます重要となってまいります。

さて、学校における食育は、学校教育活動全体を通じて組織的・計画的に推進することが大切です。そのためには、各学校において食に関する指導の目標や具体的な取組について共通理解を図り、教職員一人一人の食育への関心を高めることが必要です。

そして、子供の食に関する課題を解決するためには、学校を核として家庭や地域を巻き込んだ取組を推進し、効果的に子供の食に関する自己管理能力の育成を目指すことが重要となります。

県教育委員会においては、「第3期 埼玉県教育振興基本計画～豊かな学びで未来を拓く埼玉教育～」のもと、健やかな体の育成を目標に、食育を通じた子供たちの健康の保持・増進に努めております。

このような中、本年度、文部科学省「つながる食育推進事業」の委託を受け、草加市をモデル地域に、草加市立清門小学校及び草加市立新栄中学校をモデル校として「絆で深め 未来につなげる 彩の国の食育～笑顔かがやく草加っ子をはぐくむ食育指導～」のテーマのもと、食育の実践モデルづくりを進めてまいりました。

モデル地域、モデル校においては、これまでの取組を生かしつつ、新型コロナウイルスに対する新しい生活様式に対応しながら、本事業に御協力いただきました。

このたび、草加市教育委員会、草加市立清門小学校及び草加市立新栄中学校における食育の取組についてまとめましたので、各市町村教育委員会・各学校等において食育を推進する際に、本資料を活用していただけたら幸いです。

終わりに、草加市教育委員会、草加市立清門小学校及び草加市立新栄中学校をはじめとした、関係者の皆様に、本事業に御理解・御協力をいただきましたことに感謝申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

令和3年2月

埼玉県教育局県立学校部参事兼保健体育課長  
伊藤 治也

# 目 次

第1章 概要 .....	1
埼玉県の実況と課題	
埼玉県の「つながる食育推進事業」について	
第2章 モデル地域の取組 .....	4
1 草加市の概要	
2 草加市の実態と課題	
3 草加市の取組	
第3章 モデル校における取組 .....	8
1 モデル校の概要	
(1)草加市立清門小学校	
(2)草加市立新栄中学校	
2 実践	
(1)学校間連携(学校内の連携、小・中連携) 「学校がつながる」	
・草加市立清門小学校の取組	
・草加市立新栄中学校の取組	
・小・中の連携を図った取組	
(2)家庭・地域・関係機関との連携 「家庭とつながる」「地域とつながる」	
・草加市立清門小学校の取組	
・草加市立新栄中学校の取組	
・栄養士間の連携を図った取組	
第4章 成果と課題 .....	26
1 アンケート結果	
2 第3回推進委員会での意見	
3 まとめ	
(1)「児童生徒の食に関する自己管理能力の育成」の視点から	
(2)「栄養教諭を中核とした全校体制による食に関する指導と評価」の視点から	
(3)「栄養教諭間の連携及び栄養教諭の指導力向上」の視点から	
第5章 今後の食育推進に向けて .....	33
第6章 参考資料 .....	34





## 埼玉県の現状と課題

### 現状

(1) 「第4次埼玉県食育推進計画」(2019年度～2023年度)より

#### ○食生活や生活習慣

食のスタイルが、主食の米と副食からなる日本型の食生活から、個人の好みに合わせた食生活へと多様化しています。このような中、栄養バランスの崩れや食習慣の乱れなどが、健康に様々な影響を及ぼしています。

また、20歳代及び30歳代の若い世代における食生活の課題が顕在化しています。

#### ○共食、食文化の継承

世帯構造の変化や社会環境の変化などにより、食生活が多様化し、食への感謝の念が希薄化するとともに、健全な食生活や古くからの地域で育まれてきた食文化が失われつつあることが危惧されています。

#### ○食の知識・食の安全性

昨今、マスメディアやインターネット等を通じて食に関する情報が氾濫し、食に関する正しい情報を適切に選別し、活用することが困難な状況が見受けられます。その一方で、食品の安全性の確保は食生活における基本的な問題であり、県民の関心は依然として高い状況にあります。

(2) 「第3期埼玉県教育振興基本計画」(2019年度～2023年度)より

埼玉県では、「朝食を毎日食べている児童生徒の割合」を指標としています。

平成30年度 (設定時)		令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
小学校6年 86.6% 中学校3年 80.7%	目標値	小学校6年、中学校3年ともに 90.0%				
	実績	小6 88.5% 中3 83.3%	—	—	—	—

\*実績は、「全国学力・学習状況調査」の数値。令和2年度は実施されなかったため、令和元年度が最新値。

(3) 県主催の研修会等におけるアンケート結果より

「食に関する指導の手引—第二次改訂版—」の学校内での情報共有状況

・学校全体で共有している	13.1%
・関係職員で共有している	55.0%
・担当者のみ	31.9%

\*令和元年度第2回食育推進リーダー育成研修会  
令和元年度彩の国学校給食研究大会  
令和2年度彩の国学校給食研究大会  
の参加者アンケート結果による(571名)

### 課題

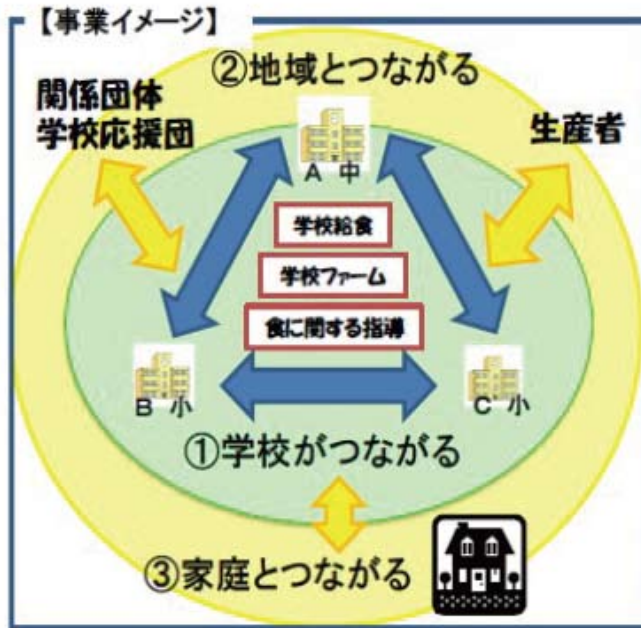
- ・児童生徒の食に関する実践力の育成
- ・学校教育活動全体での食に関する指導の充実
- ・食を支える家庭の意識向上



## 埼玉県の「つながる食育推進事業」について

### (1) 本事業のねらい

栄養教諭を中核として家庭を巻き込んだ食育を推進し、子供の日常生活の基礎である家庭における食に関する理解を深めながら、子供の食に関する自己管理能力を育成する。



### ★3つのつながる★

#### ①学校がつながる

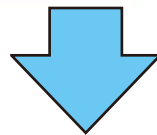
- ・各校で取り組んできた食育の活動を整理し、磨き上げる。
- ・栄養教諭を中核とした組織的、計画的に取り組む体制を整える。
- ・小中の連携した取組に挑戦する。
- ・栄養教諭間の連携を強化する。

#### ②地域がつながる

- ・地域の協力を得て、さらなる食育の強化を図る。

#### ③家庭がつながる

- ・①②の成果を積極的に発信し、家庭と小・中学校が協力し、9年間の一貫の食育の土台を育成する。



児童生徒の食に関する自己管理能力の育成  
栄養教諭の実践的指導力の向上

### (2) モデル地域及びモデル校

- モデル地域 草加市
- モデル校 草加市立清門小学校 草加市立新栄中学校

### テーマ

「絆で深め 未来につなげる 彩の国の食育」  
～笑顔かがやく草加っ子をはぐくむ食育指導～



(3) 埼玉県つながる食育推進事業 推進委員

【推進委員】

	氏名	所属 及び 役職
1	伊藤 治也 (委員長)	県教育局県立学校部参事兼保健体育課長
2	中西 明美 (副委員長)	女子栄養大学 准教授
3	咲間 悟	県教育局南部教育事務所 教育支援担当指導主事
4	鈴木 英治	草加市立清門小学校長
5	大野 正浩	草加市立新栄中学校長
6	馬越 祥子	草加市立清門小学校 栄養教諭
7	栗本 江美	草加市立新栄中学校 栄養教諭
8	田島 和彦	(公財)埼玉県学校給食会 常務理事事務局長
9	遠井 久夫	埼玉県学校食育研究会会長(羽生市立羽生南小学校長)
10	佐々木 規枝	埼玉県学校栄養士研究会会長(深谷市立深谷小学校 栄養教諭)
11	山村 一晃	草加市教育委員会教育総務部指導課長
12	萩野 貴之	草加市教育委員会教育総務部指導課 主査兼指導主事

【事務局】

(保健体育課)

1	奥木 敬司	県教育局県立学校部保健体育課 副課長
2	境 毅	県教育局県立学校部保健体育課 主幹
3	森 奈緒子	県教育局県立学校部保健体育課 指導主事

(草加市教育委員会)

1	菅野 光三	草加市教育委員会教育総務部学務課長
2	境 桃子	草加市教育委員会教育総務部学務課 主事

(4) 推進委員会 実施内容

○第1回推進委員会 令和2年7月13日(月) 草加市立清門小学校

- ・委嘱状交付
- ・つながる食育推進事業の概要
- ・草加市のこれまでの取組
- ・各学校の現状と課題
- ・今後の取組についての協議

○第2回推進委員会 令和2年11月16日(月) 草加市立清門小学校

- ・学校給食の試食
- ・食に関する指導 授業視察
- ・取組の中間報告及び協議
- ・事業成果の発信について

○第3回推進委員会 令和3年1月14日(木) Zoomによるオンライン会議

- ・取組の成果と課題



## 1 草加市の概要

埼玉県 of 東南部に位置し、市域の南部を東京都足立区に接した水と緑に恵まれた東西 7.24 km、南北 7.6 km、総面積 27.46 km<sup>2</sup>の都市で、昭和33年11月1日、人口 34,878 人で市制を施行した。

市内には小学校 21 校、中学校 11 校あり、令和2年5月1日現在、児童数 12,123 名、生徒数 6,068 名が在籍している。

## 2 実態と課題

草加市では「そうかみんな健康づくり」の取組の中で朝食欠食状況を把握してその減少を目指し、児童・生徒の早寝、早起き、朝ごはんの定着を図っている。令和元年度の全国学力・学習状況調査では、「朝食を毎日食べていますか」の質問に対して、「あまり食べていない」「食べていない」と答えた児童・生徒の割合は、小学校6年生で 4.2%（県平均 3.9%）、中学校3年生で 6.3%（県平均 6.4%）だった。埼玉県と変わらない欠食率であり、決して高くない数値であるが、より欠食率を減らしていくことが課題として挙げられる。

また、市内で栄養教諭が配置されている学校では、栄養教諭を中心に食に関する指導を推進しているが、学校全体で共通理解を図り、全教職員で組織的に食育を推進していくところまでには至っていない。学校が核となって家庭や地域を巻き込み、学校の教育活動全体で組織的、計画的に食に関する指導に取り組むことも課題として挙げられる。

## 3 草加市の取組

草加市では、食育推進事業として、第三次草加市教育振興基本計画、そうかみんな健康づくり計画、草加市都市農業振興基本計画にある目標数値等を基本に、以下4つのつながりを意識し、食育を推進している。

### (1) 幼保小中のつながり

草加市では0歳から15歳までの子どもの育ちをともに支え、目指す「草加っ子」（15歳の姿）を実現するため、幼保小中を一貫した教育を実施している。また、草加市の幼保小中を一貫した教育は、市内11の中学校区を単位として取組を進めており、実現するために中学校区内の幼保小中が交流・連携を図りながら、15年間を通じたカリキュラムを編成・実施している。

草加市幼保小中教育指針（表1及び参考資料）は、目指す子ども像を、「生活」「人とのかわり」「自ら学ぶ」の3領域ごとに、0歳から15歳までを発達段階に応じて区分し、各区分に「具体的な取組事項」をまとめている。その中で、食育についても示し、草加市内の幼稚園・保育園・認定こども園・小学校・中学校が、この指針を共有し、一体となって草加の食育を推進している。





学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
健康	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
食生活	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
生活習慣	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
その他	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

表 1



目指す「草加っ子」～草加市幼保小中教育指針～

就学時健康診断での親の学習講座の様子

### (2) 市内小中学校のつながり

全小中学校が敷地内で調理する自校方式を採用している。昼近くになると、校内に給食の香りが広がり、そこから給食に対する興味や関心が向けられ、また、作ってくれる人を身近で感じることから、子どもたちは感謝の気持ちをもち、残さないで食べようとする態度の育成にもつながっている。

また、学校栄養士が講師となり、調理員を対象とした衛生管理の研修会や学期毎に献立打合せ会を行い、市内での連携を図っている。



全校で自校方式



調理員と学校栄養士との献立打合せ会をしている様子



栄養士が講師となり衛生管理について研修している様子

### (3) 栄養士間のつながり

栄養教諭、学校栄養職員だけでなく市採用の栄養士を含めて市内の学校栄養士で構成する部会を設け、様々な研究を行っている。

#### ① 授業研究会

栄養教諭や学校栄養職員がT2として授業を毎年実施している。研究協議会では、指導主事を交え、意見を交わし、指導法や教材・教具の工夫等指導内容について共有している。また、教材についても市内の学校栄養士が活用できるよう共有している。



授業研究会の様子





②研究授業方式による衛生管理研究会

衛生管理の向上を目的とし、学校給食調理場における施設・設備・食品の取扱い、調理作業、衛生管理体制等の把握や改善方策を見出すため、学校栄養士が少人数のグループで協議を実施している。



衛生管理研究会の様子

③給食だよりの発行

市内統一した年間献立作成計画表を作成し、それに沿った給食だよりを学校栄養士が順番に発行し、全校で保護者に配布している。

献立表にもその月の目標を掲載し、また、行事食や旬の野菜を取り入れた献立を立てている。

月	献立	備考	行事食	献立	備考	行事食
1	...	...	...	...	...	...
2	...	...	...	...	...	...
3	...	...	...	...	...	...
4	...	...	...	...	...	...
5	...	...	...	...	...	...
6	...	...	...	...	...	...
7	...	...	...	...	...	...
8	...	...	...	...	...	...
9	...	...	...	...	...	...
10	...	...	...	...	...	...
11	...	...	...	...	...	...
12	...	...	...	...	...	...

年間献立作成計画表



給食だより



栄養目標

(4) 地域のつながり

①学校給食展による発信

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止としたが、毎年学校給食週間に合わせて給食展を開催し、地域や市民の方に向けて草加の給食について発信している。市内の児童生徒が作成した給食に関するポスターや標語、小中学校の食に関する取組の展示や、調理器具の展示、試食会を行うことで、地域や市民の方が学校給食を身近に感じられるような取組を行っている。



給食試食会の様子



児童・生徒の給食にまつわる作品展示

### ②市のホームページの掲載やレシピの配布

市のホームページを活用した学校給食の紹介や、給食レシピを配信している。人気のある給食レシピを動画でわかりやすく見ることができ、自宅で簡単に作れるよう配信内容を工夫している。

また、草加市教育委員会の窓口では、給食レシピや給食の冊子を配布している。

### ③食育応援農家との取組

学校給食を通じて暮らしのそばにある都市農業を伝えることを目的とし、学校へ農産物を直接納品していただける協力農業者を「食育応援農家」として、地場産物を給食に取り入れている。食育応援農家と継続的に安定供給が図れるよう会議を行い、収穫体験を行ったり、教材として野菜を使用したりし、地場産物を知っていただく機会の創出をするとともに、都市農業への理解醸成を図っている。



食育応援農家との会議



枝豆のさやむき



小松菜の納品の様子